

蓮中祭舞台発表の部を終えて

午前中の合唱コンクール。1年生・I組の部では、どのクラスもとても元気な歌声を披露しました。変声期を迎えていない男子にとっては、しっかりとした音程を出すのがまだ難しかったことと思います。でもみんなで元気よく歌った歌声は体育館に響き渡っていました。来年、再来年に期待しています。2年生は、どのクラスも甲乙つけがたく、私としては審査がとても難しかったです。当日の朝、校舎をまわっていると2年生の教室前の廊下から男子の迫力ある歌声が聞こえてきました。どのクラスも一丸となって練習しており、本番の発表が楽しみになりました。その予想通り、2年生はどのクラスも男女のバランスがとてもよく、素晴らしい合唱でした。来年はきっと今の3年生を超えようと頑張ってくれるはずです。3年生の部では、さすが3年生という合唱を聞かせました。変声期がほとんど終わった男子の迫力ある歌声と女子のきれいな歌声のハーモニーが絶妙で曲想も素晴らしかったです。なんといっても3年生のよかったところは、練習において自分たちで課題を探し、改善していったことだと思います。そういう気持ちで練習しているからこそ、もっとよくなるためにはどうしたらよいかを先生たちに積極的に聞きに行く姿勢が見られたのでしょう。今年度の本校の重点でもある「主体的な活動の充実」を実践していた取り組みでもあったと感じています。これからは自分の進路の実現に向けて頑張ってください。

午後は吹奏楽部から始まりました。1年生が入部するまでは、人数が少なく2、3年生はとても苦勞していました。昨年度末の卒業式や今年度の入学式でその苦勞を見ていたので、今年度の発表は迫力があり大変に素晴らしい演奏でした。3年生の笑顔の演奏も印象的でした。1、2年生が伝統を引き継いでくれそうでよかったです。人数が少なくても諦めずに練習してきたおかげですね。I組の音楽劇「スーホの白い馬」は涙を誘いました。物語の内容を的確に伝える一人一人の演技力と歌声は見る人の心を打ちました。音楽の時間の厳しい練習にもめげずに一生懸命に取り組んだ一人一人に心から拍手を送りたいと思います。感動をありがとう！！演劇部は新入生がいなくて、2、3年生での演技になりました。昨年と比べても格段と上手になった演技力で観客を魅了しました。20分という時間でしたが一瞬で過ぎていきました。この発表に至るまで日々の練習の苦勞や努力があったんだろうなと思われました。先週の金曜日の連合学芸会（演劇）では45分のフルバージョンを見ることができました。圧倒的な演技力でこちらであつという間に時間が過ぎていきました。他校生も見ていたのですが、終わった後、感嘆のため息が漏れるほど素晴らしい演技でした。大田区の代表として推薦され1月の都大会に出場することになりましたが、それも当然だと思える発表でした。3年生の修学旅行事後学習の発表は今年度からの取り組みになります。目的意識をもって修学旅行に行き、事後学習をまとめあげました。班ごとに課題意識をもち、調べ、発表していくことは今年度の本校の重点である「探究的な学び」です。授業で4人グループに取り組んでいますが、このような行事でも仲間と協力して一つのものを作り上げていく力は、これからの社会を生きていく上で重要になっていくことと思います。理科部の発表も今年度からです。どのような活動をしているのか今まではあまりわかりませんでしたが、実際に発表を見ると、いろいろな実験や観察をしていることが分かりました。また来年の発表も楽しみになりました。最後の Glasses duo は個人の発表でしたが、蓮中生の才能の一端を見ることができました。きっとたくさんの生徒がいろいろな才能を持っていると思います。第一弾として積極的に応募して発表してくれたことはとてもうれしかったです。演奏も素晴らしく、蓮中祭舞台発表の部を締めくくるのにふさわしい演奏でした。出演してくれた二人にも大きな拍手を送りたいです。

蓮中祭舞台発表の部が終わってから2週間が過ぎましたが、いまだにこのようにして脳裏にそれぞれの発表が浮かんできます。午前中の合唱コンクールを始めとして、午後の舞台発表も見事なものばかりでした。蓮沼中学校の生徒たちの底力を見たと同時に、教員としてそのような生徒の力を引き出していく責任を痛感させられた一日でもありました。改めてそのような見事な発表をしてくれた生徒たちに感謝の気持ちが湧いています。また、子どもたちを支え、いつも応援してくださる保護者のみなさまにも感謝します。

最近思うことなど

副校長 久住 直子

日頃から本校の教育活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

10月は早寝早起き朝ご飯月間でした。10月初旬に生徒個々に行った同調査で、「家はほっとできる場所だ」を選んだ人が80%いました。

また、「何でも話せる友達がいる」「学校は楽しい」生徒が70%。7割の生徒がこう述べていることは喜ばしいことではあります。が、学校としてはこの値を更に増やしていきたいです。

今月は、最近目にした詩を一つ紹介します。

子ども

ドロシー・ロー・ホルト

批判ばかりされた子どもは 非難することをおぼえる
殴られて大きくなった子どもは 力にたよることをおぼえる
笑いものにされた子どもは ものを言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた子どもは 鈍い良心の持ち主となる

しかし、激励を受けた子どもは 自信をおぼえる
寛容に出会った子どもは 忍耐をおぼえる
賞賛を受けた子どもは 評価することをおぼえる
フェアプレーを経験した子どもは 公正をおぼえる
友情を知る子どもは 親切をおぼえる
安心を経験した子どもは 信頼をおぼえる
可愛がられ 抱きしめられた子どもは 世界中の愛情を感じ取ることをおぼえる

スウェーデンの中学教科書より

保護者の皆さまが、お子さん一人一人に真剣に向き合い、愛し、大切に育んでくださっていることに本当に感謝申し上げます。そして、蓮沼中学校が、上記の詩の後半のようなことを経験できる場所に日々なっていくように、教職員一同今後とも努めていきたいと思っております。

さて、今月は表彰がたくさんありました。正に「賞賛を受けた子どもは・・・」ですね。おめでとうございます！